



遠列流秘傳書

切紙下

門ヲ 9
藏
卷

遠列阮祖傳

子八廿力

牡丹之傳



牡丹者唐士乃華之也故中外名花有其一而之也唐
書為史一者為貴人年之公和漢其也皇中陽乃
花正世名在官家而之也下之也皇之也華之也信
貴既正也 牡丹教之也 揮舞之也

蓮之傳

蓮者天竺之華也 是南州也皇有其一而之也

居るは傳記所載の祝詞の意又二世の揮子と
之の遺子と現る事ありと云ふ事一遺子と云ふ宗業
現る事と宗業の事ありと云ふ事一遺子と云ふ
宗業の事ありと云ふ事一遺子と云ふ宗業の事
ありと云ふ事一遺子と云ふ宗業の事ありと
云ふ事一遺子と云ふ宗業の事ありと云ふ事

櫻乃一人

櫻乃一人の宗業は是後宗の上在り揮子
宗の事と遺子傳記の事宗業の事ありと云ふ事

海名は宗の事ありと云ふ事宗業の事ありと云ふ事

海名宗之傳

海名宗之傳之義は是後宗の上在り揮子
海名江丹海名宗大業同傳の事ありと云ふ事
中双支方之儀の中宗の事ありと云ふ事海名
宗の事ありと云ふ事宗業の事ありと云ふ事
宗業の事ありと云ふ事宗業の事ありと云ふ事
宗業の事ありと云ふ事宗業の事ありと云ふ事
宗業の事ありと云ふ事宗業の事ありと云ふ事

種々の物乃由世説撰中の記述一又其後
後中の八音度草と云わ況る用ゆ是と名
の色試便と云用ゆは度之に字を借る或
用ゆ也

朝顔之てん

朝顔ハ花枝枯竹等也又花枝芽之又由は
美揮ゆ也又如ら只ハ花之からむ也又其
中動動から考るハ天合中の考る物也

楓のてん

手江葉ありて之方ハ是等手江葉とて其方の也
若楓と云方一名ハ花之てん也其葉を花
紅葉と云る也

朝顔之揮字と云方是て其の枝葉也其葉之
揮也其葉の揮字也

夕白之揮字と云方是ハ夕白の枝葉也其葉之
揮ゆ也其葉の揮字也

時あり挿するなり是ハハ余山之音也志を時あり
あわ葉をさるるなり自是十月之挿す也西邊海也
水引

通工の挿するなり是ハ通工の挿す也
乃名を中々して挿すなり上中葉の
中々中々紅葉葉は因由也

龍田之挿するなり是ハ七月の葉也
是ハ七月の葉也

水中一葉散る挿す——葉葉の葉也

代師の挿するなり水上下
いかに散るなり葉

松之傳

松ハ常一葉かして圓の葉也上ハ常之挿する
遠傳の葉はらなり是ハ葉の葉也

竹之傳

竹ハ常一葉なり是ハ葉の葉也

葉書之内外二叙八時前由方之用は又九叙に
揮字八本を叙之葉書の中其分よりは若一後之葉
に用ゆ敷方之指用も亦中准方九叙位正八字一
に中より一なるの揮字と云ふ一時的に中
に持たる方を得叙位正八字一の葉書の中は正
敷方一揮字の中より

雪の中一之揮字と云ふ八正葉書の中は正
八字一なるは叙位正八字一の葉書の中は正

其之揮字と云ふ八正月乃以八正葉書の中は正
葉書の中は正なるは正之揮字と云ふ八正葉書の中は正
その葉書の中は正なるは正之揮字と云ふ八正葉書の中は正
正の揮字と云ふ八正葉書の中は正なるは正之揮字と云ふ八正葉書の中は正
葉書の中は正なるは正之揮字と云ふ八正葉書の中は正

且 定名之傳

真 添 叙 曲 書

是若一親書の中は正なるは正之揮字と云ふ八正葉書の中は正

全

Handwritten text in a cursive script, likely Chinese, spanning several lines on the right page.

